

カザフスタンのアルマトイ市の第三次五カ年計画におけるソビエト政権下の都市計画・建築様式に関する研究動向と課題：（ソビエト・カザフスタンの一般建築史その2）

諸喜田, 真
フリーランス

<https://doi.org/10.15017/7337605>

出版情報：都市・建築学研究. 47, pp.37-52, 2025-01-15. Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



カザフスタンのアルマトイ市の第三次五カ年計画におけるソビエト政 権下の都市計画・建築様式に関する研究動向と課題 (ソビエト・カザフスタンの一般建築史 その2)

Research trends and issues on urban planning and architectural styles under the Soviet regime in the Third Five-Year Plan in Almaty, Kazakhstan (General Architectural History of Soviet Kazakhstan Part 2)

諸喜田 真*
Shin Shokita

In 1937, the All-Union of Soviet Architects criticized constructivist architecture and promoted "socialist realism" according to Leninism. Kazakh architect T. K. Basenov condemned constructivism in Alma-ata and advocated using traditional ornamentation. In urban design of Alma-ata, socialist realism expressions were emphasized, center of the city becoming huge and monumental. Though administrative buildings adopted Russian classical styles, elements of constructivism persisted in plan of the building. By the late 1930s, new buildings, especially houses incorporated elements of Renaissance style. The ballet and opera theater in Alma-Ata, initially designed in constructivist style, was later built in a blend of Russian classical and Kazakh ornamentation, reflecting a Lenin's "two cultures" in architecture in Alma-ata.

Keywords : Soviet architecture, Urban design, Kazakhstan, Almaty, Stalinist architecture

ソ連建築, 都市計画, カザフスタン, アルマトイ, スターリン建築

1. はじめに

1.1 研究の背景

1937 年から大祖国戦争終了の 1945 年までの間に計画された三次五カ年計画（1938 年から 1942 年, 戦争の開始により中断）におけるカザフスタンのアルマトイのソ連時代の建築に関する論文は, これまでに 2024 年の諸喜田真の論文 1.1 項にて言及された論文^{文献1)}を除いて, エリザベータ・マリノフスカヤによる「Историко - культурное наследие архитектуры национального стиля Казахстана (カザフスタンの民族様式建築の歴史的・文化的遺産)」(2016 年) は主に 1930 年代後半のアルマ・アタの民族様式建築, 特にオペラ・バレエ劇場に関するものであり, 「Театр эпохи строительства социализма. Н. А. Круглов (1883-1938) (社会主義建設時代の劇場 N.A.クルグロフ (1883-1938))」(2017 年) は抑圧された建築家クルグロフに関するものである。

この時代の建築に関する書籍として出版されたものは, 前述の 2024 年の諸喜田真の論文 1.1 項にて言及されている通りである。

1.2 研究の目的と方法

1937 年にモスクワで開催された第一回全ソ連建築家同盟会議から大祖国戦争終了の 1945 年までの間の第三次五カ年計画におけるカザフスタンのアルマトイのソビエト時代の都市計画や建築において, 建築様式の傾向はサモイロフの論文により明らかにされているが, ではないかなる理由で構成主義から古典様式を取り入れた様式へと移行されていったのか明らかにされていない。またファサード上の要素については記述されているが公共・住宅建築のファサード上の構成に関しては分析が行われていない。2016 年のマリノフスカヤの論文も当時のアルマ・アタの状況について言及しているが中央の政治・建築の状況については言及されておらず, 建築のボリューム構成や平面構成・計画についての分析も行われておらず, これらを明らかにする必要がある。

その方法として過去の研究論文やこれまで出版されて

* フリーランス

きた書籍・雑誌などの二次資料をレビューし、筆者自身が撮影した写真も活用してソ連の第三次五カ年計画においてどのような政策・決議が行われ都市計画・建築建設が実行されていたのか、また当時建築家の発言や言説・論考がその後の都市計画・建築にどのような影響をもたらしたのかを考察し都市計画・建築様式、ファサードデザインの構造、ボリューム構成や平面構成・計画の変遷を本稿にて明らかにしていく。

また論文や二次資料をレビューし明らかにされていない項目を抽出し、今後一次資料を基にどのような研究が必要かを考察していく。

2. 1937 年から戦前までの政治・建築界の状況

1937 年 6 月 16 日から 6 月 26 日にかけてモスクワにて第一回全ソ連建築家同盟会議が開催された^{文献 2)}。会議において K.アラビヤン、A.シューセフ、N.コリらがソ連建築の課題に対する報告を行い、B.イオフアン、V.シュューコ、V.ゲルフレイフによるソビエト宮殿の建築に関する報告、都市計画と再建の問題として S.チェルニシェフによる「モスクワ復興の一般計画について」、L.イルインによる「レニングラードの計画と都市アンサンブルの問題について」、G.シモノフと A.モルドヴィノフによる「住宅建築」、M.ギンズブルグによる「住宅建設の工業化について」、M.クリューノフと I.ジョルトフスキーによる建築教育の講演が行われた^{文献 3)}。

アラビヤンはドイツやイタリアのファシズム建築に対して批判を行い^{文献 4)}、構成主義・形式主義特にメーリニコフやギンズブルグに対して徹底的な批判を行い^{文献 5)}、形式主義的な都市計画に対しても批判を行った^{文献 6)}。「党は我々に古典的な遺産と近代建築が生み出した最高のものの全てを批判的に研究するという任務を課した（筆者訳）」^{文献 7)}とし、「ブルネレスキ、パッラーディオ、ブラマンテ、その他のルネサンスの偉大な建築家から文化遺産をマスターする方法を学ばなければならない（筆者訳）」^{文献 8)}として、パッラーディオの言葉を引用し^{文献 9)}

「社会主義リアリズムの建築を創造する我々ソビエト建築家にとって多くの価値が含まれている（筆者訳）」^{文献 10)}とした。また「建築、絵画、彫刻という 三つの芸術を総合するという問題は我々にとって非常に重要」^{文献 11)}とし、「民俗芸術の最良の例は全てのソビエト建築家にとって国家的誇りの源であり、（中略）民俗芸術や他の兄弟国家共和国の最良の例に目を向ける必要がある（筆者訳）」^{文献 12)}としてレーニンの「民族文化と国際文化」を引き合いに出し「国家建築遺産の発展において私たちが指針となるべきもの（筆者訳）」^{文献 13)}とした。最後に「建築の工業化に向けて西ヨーロッパとアメリカの建築界の優れた代表者の豊かな経験を活用することは非常に重要である（筆者訳）」^{文献 14)}として「オーギュスト・ペ

レの鉄筋コンクリート技術、フランク・ロイド・ライトや最良の現代アメリカ建築から多くを学ぶことが出来る」^{文献 15)}と締めくくった。

ギンズブルグは構成主義について殆ど述べず、「建築における社会主義リアリズムとは現実を真実に理解し描写する能力であり、自然主義とは異なり永遠の無作為の中にはなく最も典型的な現れと最も典型的な環境の中にある。（中略）ソビエトの現実を注意深く研究し、この現実の新しい図を創造的に一般化することに向けられるべきで、これは社会主義リアリズムであると主張するあらゆる作品の基礎となるべきで、（中略）議会は標準設計の問題を鋭く提起する必要がある、（中略）過去の建築遺産を注意深く研究すると同時に、時代の特徴を表現するさらに美しく活気に満ちた建築作品を生み出さなければならない（筆者訳）」^{文献 16)}と述べた。

L.ルドネフは1937年5月から開催されたパリ万国博覧会のソ連館を訪れたことを語り、「ソ連館の建築において新しいことは建築家に与えられた課題に対するイデオロギー的アプローチであり、これこそがソ連の建築の取るべき方向性である（筆者訳）」^{文献 17)}と述べた。

I.マッツァは「マルクス・レーニン主義の手法をもって社会主義リアリズムのために闘う集団が必要であり、建築家連合の批評・理論部門である建築アカデミーが行うべきである（筆者訳）」^{文献 18)}と述べた。

D.E.アーキンは「近年の古典の解釈において二つの学派が確認できるが、両方とも古典の遺産を誤って解釈しているよう感じられ、（中略）『レニングラード派』は重厚で超記念碑的な形式のみに重点を置くことによって我々の時代の偉大さを表現できると信じ、ローマ風のモチーフやその他のモチーフが使用され超記念碑的な表現が行われており、もう一つの『ジョルトフスキー派』は師の繊細なディテールに感銘を受けて初期ルネッサンスや古代ギリシャに傾倒しており、彼らが自らの才能を示すには再編成が必要だ（筆者訳）」と非難し^{文献 19)}、「我々の『古典』には現代性が著しく欠けており現代の産業技術を建築的に習得しなければならない（筆者訳）」^{文献 20)}と主張した。

アルメニアのマズマニャンは「我々は世界の建築の継承者であり世界の古典的な遺産を自らのものであるように扱うが、私たちの研究対象である祖国にも探求すべき民族芸術が膨大にあり、形式的には民族文化であり内容的には社会主義であるというスターリン主義の定義は理解されておらず他の共和国の設計には用いるがロシアにおいては忘却する（筆者訳）」^{文献 21)}とロシアの偉大な遺産を無視した建築家を非難した。

都市計画においてはアンサンブルの問題について言及され^{文献 22)}、住宅建設に関する議論はアパートの構造と内部配置と設備の工業化、類型化と標準化の問題に焦点が

当てられた^{文献 23)}。

また外国人建築家の演説も行われ、スペインの建築家マヌエル・サンチェス・アルカスは遺産としての芸術についてスピーチを行い^{文献 24)}、フランスのフランシス・ジョルダン^{文献 25)}は社会主義リアリズムについて言及し「社会主義リアリズムの手法を習得するには必然的に資本主義の遺産を利用しなければならないというのは正しい（筆者訳）」と述べた。アメリカのフランク・ロイド・ライトは会議が行われたホールの装飾に対し「このホールの優雅さはむしろ余暇の生活を物語るものであり、いわゆる新しい有機的な建築のレベルにははるかに及ばない。（中略）有機的な建築を創造する正しい方法は、建築を科学的に組織化し真の人間性の精神で建築を活性化することである。（中略）ソビエト・ロシアは正しい計画思想を実現するための機が熟しており、有機的建築は新しい自由な生活のアイデアを表現するだけでなくこの生活をどこよりもうまく送る機会をソ連に提供するだろう。（中略）ソビエト・ロシア発の有機的建築のアイデアは大陸各国の孤立した生活が続けば他の国々にも広がっていくだろう（筆者訳）」^{文献 26)}とスピーチを行い称賛を浴びた。

ヴェスニンも報告に対する議論にて「構成主義はすでに過ぎた段階であり、社会主義リアリズムだけが正しいイデオロギー的方向性を与え、社会主義リアリズムの出発点は、生命は継続的な運動と変化であるというエンゲルスの主張とみなされなければならない（筆者訳）」^{文献 27)}と述べた。

会議においては「第三次五カ年計画の遂行には建設の工業化が必要で、建築家は最新の工業技術を習得し建築の芸術的品質と有機的に組み合わせて迅速・経済的かつ美しく建設していかなければならない（筆者訳）」^{文献 28)}とされた。ソ連評議会議長の V.チュバリヤは演説において「同志である建築家は偉大な歴史的記念碑の建設に関わっており、それは我々の時代の偉大さ、プロレタリアート独裁を強化する闘争の偉大さ、社会主義を強化する闘争の偉大さを後世に示すものでなければなりません（筆者訳）」^{文献 29)}と述べた。

この会議に参加していたカザフスタンの主任建築家 T. K.バセノフはアルマ・アタの総督府や鉄道管理局などの構成主義建築に対し、「芸術的な輝きを失い、通りや広場の外観を台無しにして都市中心部の開発において深刻な障害となり、蓄積された民俗芸術を無視してはならないというレーニンの教義を建築家が忘却した（筆者訳）」と批判し、「公共建築に民族的装飾を用いるべき（筆者訳）」^{文献 30)}と主張した。

また 1937 年 10 月は十月革命の 20 周年に当たり、建築雑誌上では「社会主義リアリズムだけが建築を豊かにしスターリン時代の要求レベルにまで高めることができ

る。（中略）現実とかけ離れた形式主義的な試みは哀れだ（筆者訳）」と主張された^{文献 31)}。

1938 年に「全ソビエト共産党（ボリシェヴィキ）の歴史の短期コース」というマルクス・レーニン主義に関する書籍が出版され、「ソ連の建築」1938 年第 12 号の誌上において、「マルクス・レーニン主義の教義は建築の理論的思考と実践を豊かにする理論的武器であり、全ての建築家はマルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの著作を研究し党の歴史を知る必要がある。（中略）マルクス・レーニン主義を自らの作品に適用していくことが重要である（筆者訳）」と主張された^{文献 32)}。

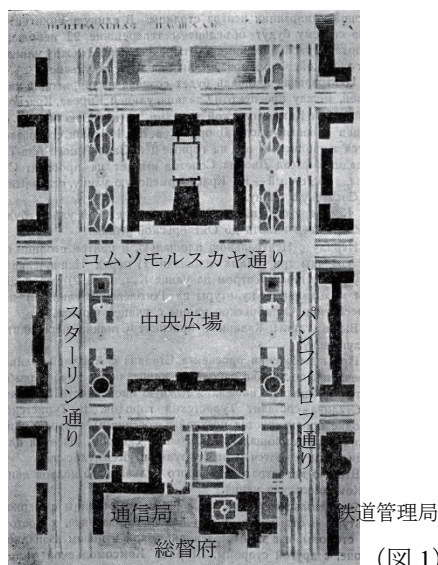
1939 年にボリシェヴィキ全連合共産党第 18 回大会が行われ、第三次五カ年計画において「階級のない社会主義社会の建設を完了し、社会主義から共産主義への段階的な移行を完了する。（中略）偉大な作品の新たな計画であり、経済・文化のあらゆる分野における巨大な創造活動の計画が決定され、（中略）都市における新規住宅ストックの大幅な増加、映画館、クラブ、図書館、文化の家、読書室のネットワークの増加、建築実務の類型化と標準化の必要性が謳われ、建設事業の産業化、標準設計の開発と改善、建設業界の再構築が課題（筆者訳）」^{文献 33)}とされた。

1940 年はレーニン生誕 70 周年に当たり、「ソ連の建築」1940 年第 1 号にて「レーニン主義は不滅である」という記事が投稿され、「建築の正しい理論はマルクス・レーニン主義の世界観に基づいてのみ発展させることが可能で、（中略）人類の蓄積してきた知識、文化、芸術、建築の発展に関するあらゆる経験を活用しなければならない。レーニンは全ての科学技術、知識、真の芸術は資本主義から摂取されなければならないと説き、（中略）この摂取がなければ共産主義の生活を築きあげることは不可能（筆者訳）」^{文献 34)}と主張された。また「マルクス・レーニン主義は芸術や建築における思想の役割を非常に重視しており、スターリンは著書『弁証法的唯物論と史的唯物論』においてこの事を強調しており史的唯物論はレーニン主義の重大な役割と重要性を強調している。（中略）したがって社会主義建築には多種多様な建築思想が含まれることになる。（中略）革新は我が国の建築の発展において主要な法則となるべきだが、レーニンは『新しい』という理由だけで崇拜しないよう警告しており『美しいもの』はたとえ古いものであってもモデルとして保存しなければならない。（中略）その時代によって生み出された芸術や建築の形態を批判的に理解しなければマルクス・レーニン主義の理解によって提唱された社会主義リアリズムに基づいた創造性は存在しない（筆者訳）」^{文献 35)}と断言された。さらに「レーニンの教義によれば芸術は人民のものであり、（中略）全ての建築家は（中略）労働者大衆の利益を満たす高速建設方法のために戦わな

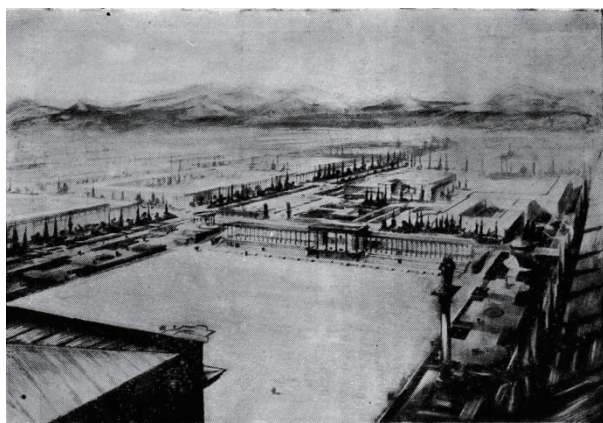
なければならない」^{文献36)}と締めくくった。

3. 第三次五カ年計画（1938—1942）における都市計画

第三次五カ年計画が1938年から1942年まで施行されたが、1935年ソ連人民委員会及びソ連共産党中央委員会による「モスクワ復興のための一般計画」において決議された内容はカザフスタンの都市計画においてその基礎となった^{文献37)}。歴史的に確立された都市構造を保守しながら再構築が同時に行われ、都市は社会主義時代の偉大さと美的さが反映されるよう設計されたアンサンブル、広場、街路システムの構築が予定された^{文献38)}。



(図1) 中央広場^{出典1)}



(図2) 中央広場透視図^{出典2)}

ロシアの教育人民委員会の建築計画第一スタジオの建築家 A.レプキン, I.グレビッチによって1936年に完了した最初の計画と再建プロジェクトの一般計画は1937年カザフスタン人民委員会によって承認され^{文献39)}、それに従ってアルマ・アタにおける産業・土木建設の建設が1930年代後半に行われた。「大きな村から文化的で快適な都市に、真の首都に、科学の中心地（筆者訳）」へ移行させるといふ計画で^{文献40)}、1955年までに人口を36万

人にまで増加させるというものであったが^{文献41)}、「都市構造の基本計画としては従来の長方形のシステムを援用しつつ都市における道路と広場のネットワークの合理化を行うものであった。また西側への拡張は都市の発展において必要とされヴェスノフカ川沿いに新たな建設が予定された。この計画にてスターリン通りとコムソモルスカヤ通りを都市を構成する中心軸としスターリン通りは南北の軸線として、コムソモルスカヤ通りは西方向への重要な拡張軸線として構成しその交差点部分総督府の北側に新たな中央広場が計画された（筆者訳）」^{文献42)}（図1, 2）。またスターリン通り北側に鉄道駅や劇場の広場の建設が予定され^{文献43)}、スターリン通りの南側の端部に接続された東西を貫通するアバイ通りから南側への小さな拡張も計画された（図3）。



(図3) 再建プロジェクト図, 1937年^{出典3)}

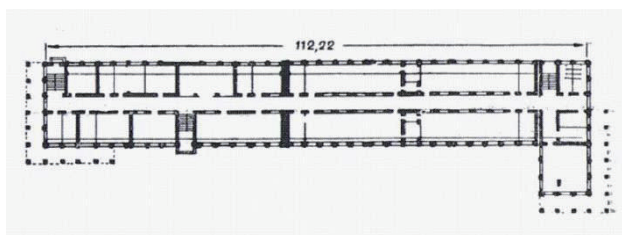
3.1 第三次五カ年計画における公共建築

コムソモルスカヤ通り西側にレニングラードの建築家 A.ゲゲーロ, D.クリチーフスキーの設計により1937年に医学研究所（写真1）が建設されたが、角柱と付け柱による列柱構成で、平面図（図4）においては端部・階段室が突き出しており構成主義の手法が残されている。三棟で構成され中庭を形成しており、中央・左翼の棟が右翼部分と列柱などのデザインも異なっているが左翼部分は「当時の建築的状況の転向により P. ラスポポフによって1938年に設計変更が行われた（筆者訳）」^{文献44)}（写真2）。中央部分は1951年に B.ステシンの設計によって完成したが、立面図（図5, 6）からゲゲーロの設計図に基づいて装飾などの変更が行われたものと考えられる。

右翼部分の角柱の配列による入れ子的な構造にレニングラードの建築家 V.シュューコの設計により1928年から1941年にかけて完成したモスクワのレーニン図書館（写真3）の影響が見受けられるが、配置計画や構成においても V.シュューコの設計に基づいて1923年に建設されたレニングラードの記念碑であるスモリヌイ学院へのプロピュライア（写真4）に近似しており、参照されたのではないかと考えられる。



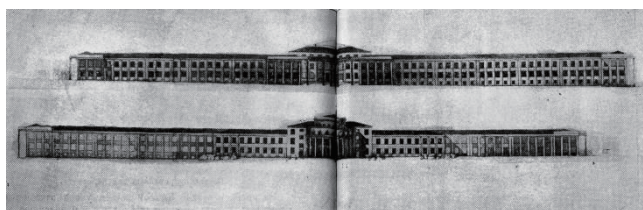
(写真1) 医学研究所右翼部分, 1937 年^{出典4)}



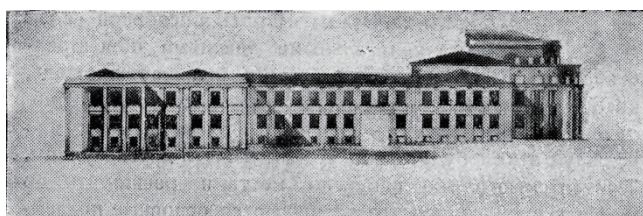
(図4) 医学研究所一階平面図^{出典5)}



(写真2) 医学研究所左翼部分, 1938 年 (筆者撮影)



(図5) 医学研究所立面図 (プロジェクト) ^{出典6)}



(図6) 医学研究所立面図 (プロジェクト) ^{出典7)}



(写真3) レーニン図書館^{出典8)}



(写真4) スモリヌイ学院へのプロピュライア^{出典9)}

M.ギンズブルグの設計によって1934年に建設されたトルキスタン・シベリア鉄道の管理局は1938年にガラス張りからM.シュガルによってファサードに付柱や人物像の彫刻等が加えられ古典様式へと改修された^{文献45)}(写真5)。これは建築界の状況変更に伴い何らかの政治的な決定が関与しているものと考えられる。



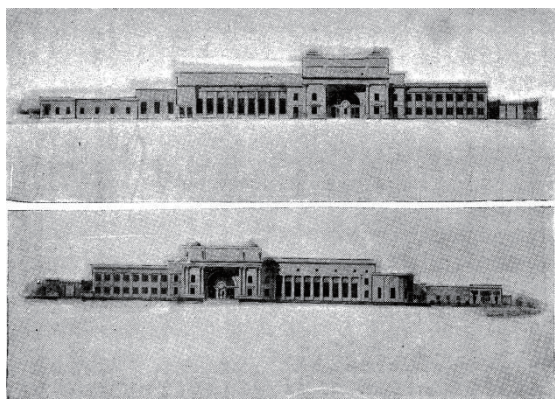
(写真5) 鉄道管理局, 1938 年^{出典10)}

スターリン通り北側始点にアルマ・アタII鉄道駅(写真6)がウクライナの設計機関であるハリコフプロジェクトによる標準設計に従って^{文献46)}M.クドゥリャフツェフ, A.ガルキンの設計により1939年に列柱を取り付けた古典主義の様式で建設された。D.バラギンの著書では1936年^{文献47)}としているが、メンディクロフの著書によれば1938-1939年としている^{文献48)}。M.N.サルモバの著書において鉄道駅の写真はなく立面図(図7)が掲載されており建設中と記述があり^{文献49)}1939年の可能性が高い。立面図中の左翼部分は1977年に完成している^{文献50)}。両翼

の高さが異なる左右非対称で構成され駅舎右側部分が半円形になっており構成主義の手法が残されている^{文献 51)}。



(写真 6) アルマ・アタII鉄道駅, 1939 年^{出典 11)}



(図 7) アルマ・アタII鉄道駅立面図^{出典 12)}

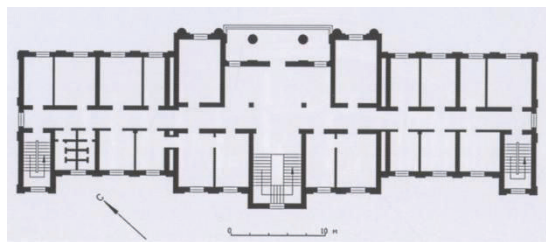
スターリン通りにトラムが開通しアルマ・アタII鉄道駅から南に向かって新たな行政機関の施設が建設されていたが、M.シュガルの設計によって 1938 年に建設された健康人民委員会(写真 7, 8)を中心に G.クシュナレンコの設計により 1938 年に建設された国家農業省(写真 9)、食品産業人民委員会(写真 10)が左右対称に配置され広場を伴ったアンサンブルが形成された。M.シュガルの設計により 1937 年に建設された財務省(写真 11)などの行政施設が中央広場に対して正面を向くよう中央広場北西のスターリン通り沿い西側に建設された。



(写真 7) 健康人民委員会, 1938 年^{出典 13)}



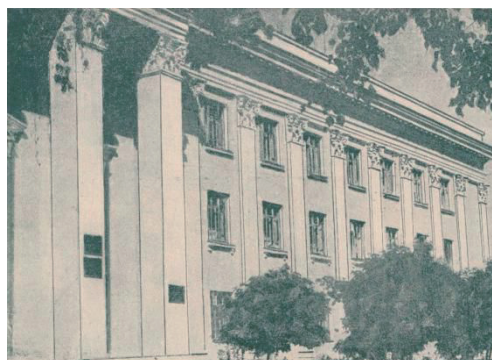
(写真 8) 中央:健康人民委員会, 左:国家農業省, 右:食品産業人民委員会, 1938 年^{出典 14)}



(図 8) 健康人民委員会平面図^{出典 15)}

健康人民委員会の平面(図 8)において裏側部分の階段室が突き出しており構成主義の手法が残されている。国家農業省と食品産業人民委員会は L 字型の平面構成で、食品産業人民委員会の平面(図 9)においては端部の階段室が突き出しており構成主義の手法が残されている。

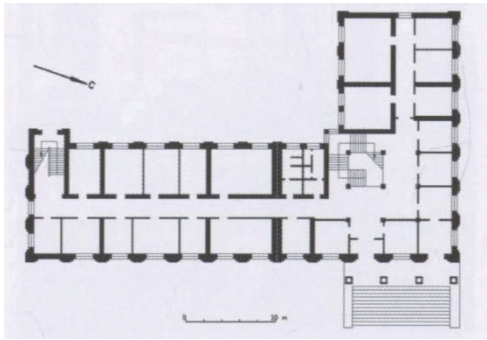
メンディクロフは自身の著書で国家農業省に対し「遺産を批判的に利用する意識が希薄で創造的再設計がなされていない(筆者訳)」と批判し、食品産業人民委員会に対しては「設計者はイオニア式オーダーを創造的に再設計した結果だろう(筆者訳)」と評価した^{文献 52)}。どちらもクシュナレンコによる設計であるが、なぜオーダーが異なっているのか理由は判明していない。



(写真 9) 国家農業省, 1938 年^{出典 16)}

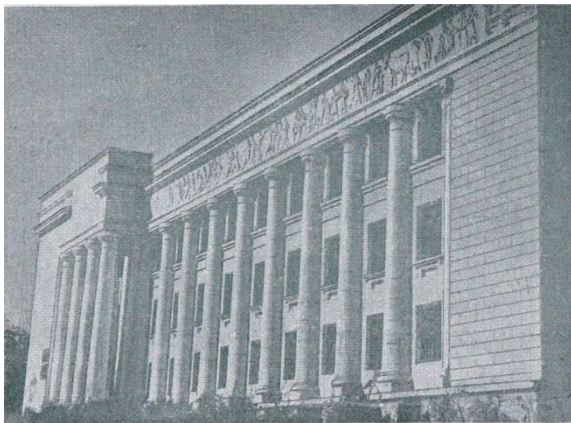


(写真 10) 食品産業人民委員会, 1938 年 (筆者撮影)

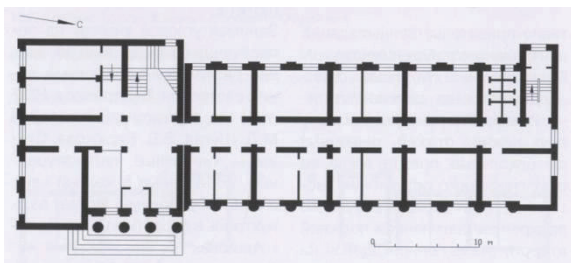


(図 9) 食品産業人民委員会平面図^{出典 17)}

健康人民委員会を中心に両サイドに列柱の付け柱を配した建築の構成だが、前述の医学研究所と共通点がみられる。M.サルモフの 1937 年の著書には医学研究所の立面図と健康人民委員会の透視図は掲載されているが国家農業省と食品産業人民委員会については無いことから、医学研究所と人民健康委員会の方が先に計画されクシュナレンコが医学研究所の配置計画を参考にした可能性がある。



(写真 11) 財務省, 1937 年^{出典 18)}



(図 10) 財務省平面図^{出典 19)}

財務省の平面図(図 10)を見ると食品産業人民委員会と比較して L 字形の要素は弱まったが、交差部にポルティコを設け階段室が突き出しており構成主義の手法が残されている。

国家農業省と食品産業人民委員会、財務省のファサードにおいてはオーダーがそれぞれ異なるがジャイアント・オーダーの付け柱が用いられている。

T. K. バセノフはこの時期の建築に対して「カザフスタンの建築における発展はロシア古典建築の遺産の発展的活用であり、I. フォーミンや V. シューコらの建築スクールによって創造的に設計された古典建築はカザフスタンの建築に適していた(筆者訳)」^{文献 53)}とした。

これらの三棟に対しメンディクロフは「古典建築の要素をそのまま使用しカザフスタンの遺産を批判的に使用するという意識が薄く創造性に欠ける(筆者訳)」^{文献 54)}と批判し、「鉄道駅・財務省棟に関しては共和国文化や農民、兵士などを主題にしたバスレリーフや彫刻がソ連の公共建築における芸術性を高めている(筆者訳)」^{文献 55)}と評した。キルギスの建築家クルバトフは「1930 年代中期ソ連の建築家の方向性が再構築するプロセスにおいて建築における『モニュメント化』が行われた(筆者訳)」^{文献 56)}としたが医学研究所、人民健康委員会・国家農業省・食品産業人民委員会においてアンサンブル広場を軸にした中心性・対称性など「モニュメント化」への傾向が伺える。

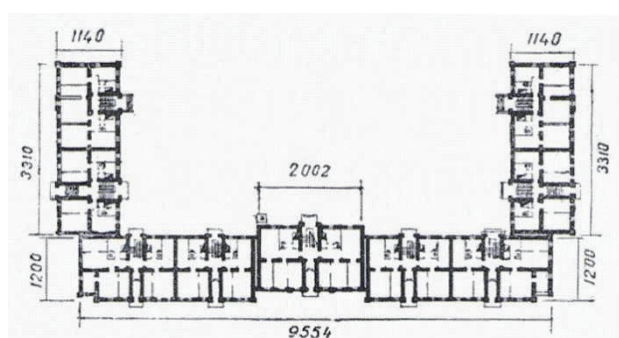
3.2 第三次五カ年計画における住宅計画

1930 年代後半、第二次五カ年計画の政策の成功を受けて住宅建設がソ連全土で大規模なものとなり^{文献 57)}、住宅団地 No.5 (写真 12) がカレーニネーパンフィロフ通りの交差点に M. レビンソンの設計で 1938 年に建設された。複数の家族が一戸のアパートに住むことが以前からの習慣であったため、1フロアの戸数を二つにし、一戸に二世帯が住めるよう設計された^{文献 58)}。平面図(図 11)を見るとブロックで構成され完全にシンメトリーとなっており階段室の突き出しも無くなっている。また真ん中の部分が両サイドよりも引込みみかつ一層高くなっておりモニュメンタル性が表現され、一層から二層目にかけて角柱の付け柱が取り付けられ上部にアーチ状の装飾が導入されている。ただ平滑なファサードにアーチや列柱、ペディメントを取り付けただけのように見え、名称も No.5 とされながら後述の建物よりも建設年代が後であることには疑問が残る。

「これにより大型の集合住宅を設計しようとする傾向が表れたが経済的・技術的問題が考慮されておらず設計者たちは 1 戸当たりの面積がより小さい集合住宅の建設が必要と考えていたが、1937 年に開催されたソ連建築家同盟の会議において、先の複数の部屋を持つ一戸に対し複数の家族が住むことは経済的にも不都合とされ一家族一戸の標準タイプの集合住宅の開発が進められた。それに従い二部屋の四戸の集合住宅が 2 種類設計された(筆者訳)」^{文献 59)}。



(写真 12) 住宅団地 No.5, 1938 年^{出典 20)}



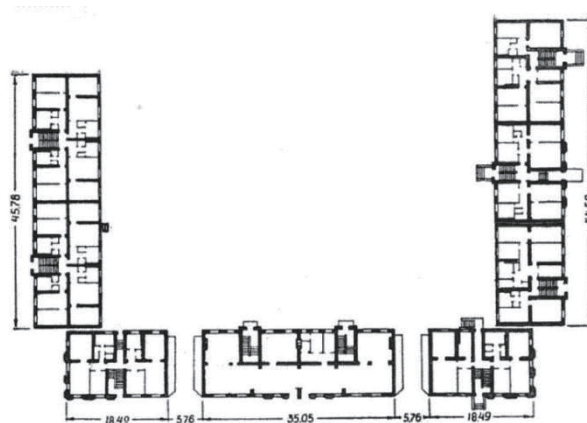
(図 11) 住宅団地 No.5 一階平面図^{出典 21)}

レニングラードの建築家 G.A.シモロフは「ソ連の建築」1936 年第 7 号に「住宅の建築」という論考を投稿し、「住宅建築は抽象的かつ一般的な形態ではなく、地方の住宅においては特定の地方の気候や自然条件に基づいた民族的住宅デザインの創造について議論する必要がある。(中略)住宅は日当たりがよくファサードはロジャアやバルコニーなどによって陰影の富んだものでなくてはならない(筆者訳)」と主張した^{文献 60)}。

スターリン通りーカレーニン通りの交差点に住宅団地 No.7 (写真 13) が Ya.スタンケビッチ, V.トベルドフレボフ, M.クドゥリャフツェフの設計により 1937 年に建設された。「これらの建築は重要な道路に面していたためこれまでの集合住宅のデザインと比較してファサードデザインの表現力が高まっていった(筆者訳)」^{文献 61)}。前面中央部と両サイドに三層に渡る角柱の付け柱を取り入れ中庭への通風用の通路の表現方法など、ファサード表現がより彫りが深くアール・デコとして強調されてきたが、住宅団地 No.7 の道路交差点部分の隅部のボリューム構成においては住宅団地 No.4 のように構成主義の影響が残されている。平面計画(図 12)においては北側両翼部分においては部屋数が異なるブロックで構成されているが全体としてはシンメトリーの構成だが、階段室の部分が若干だが突き出している。



(写真 13) 住宅団地 No.7, 1937 年^{出典 22)}



(図 12) 住宅団地 No.7 一階平面図^{出典 23)}



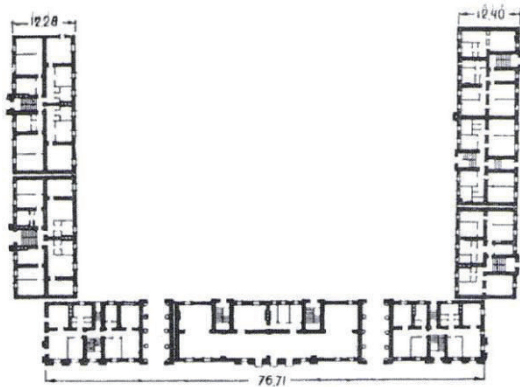
(写真 14) スタハノフの家, 1938 年^{出典 24)}



(写真 15) スタハノフの家, 1938 年(筆者撮影)

Ya.スタンケビッチの設計によりパンフィロフーキロフ通りにスタハノフの家(住宅団地 No.6) (写真 14, 15)

が1938年に建設された。以前はメンディクロフにより設計者はM.クドゥリャフツェフとされていたが^{文献62)}、マリノフスカヤによりスタンケビッチと判明した^{文献63)}。平面構成(図13)など前述の住宅団地No.7に近い構成であるが、一層目の巨大な基壇や二層に渡るジャイアント・オーダーとバルコニー、通路のアーチ部分からパツラーディオのパラッツォ・ポルトーブレングアツェを参照したのではないかと考えられる。



(図13) スタハノフの家一階平面図^{出典25)}



(写真16) 三階建ての住宅, 1938年^{出典26)}

ゴーリキ通り^{注1)}に三階建ての住宅(写真16)がY. イジェフ, V.トベルドフレボフの設計によって1938年に建設されたが^{文献64)}、明らかにI.ジョルトフスキー設計によるモスクワのモホヴァヤ通りの住宅が参照されている^{文献65)}。

3.3 管理局・高等教育機関・医療機関の建築

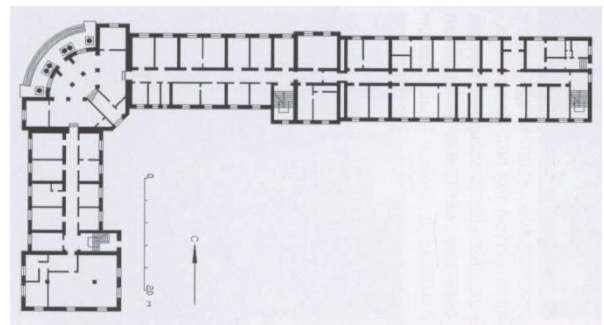
コムソモルスカヤ通りの東側の地区に体育館と寄宿舎がヴェールヌイ時代の1890年代に建設されており最初の教育機関であったが、「文化宮殿を皮切りにそれを引き継いでいく形で同通り沿いに西に向かって管理局や高等教育機関, 医療機関の施設群が建設されていった(筆者訳)」^{文献66)}。

コムソモルスカヤ通りとフルマノフ通りの交差点に南

カザフ地質管理局がG.クシュナレンコ, E.ポリセンコの設計によって1939年に建設された^{文献67)}(写真17)。カザフスタン地質委員会の支部が旧首都であったクズ・オルダからアルマ・アタへの移転のために建設されたが^{文献68)}、平面図(図14)を見ると湾曲したコーナー部分の両サイドに部屋を付したボリュームが取り付けられ、GPUのクラブ劇場と同様の構成であり、階段室を含む両翼端部も突き出しており構成主義の要素が残されている。東側の長い部分は二重壁で構造が切れていることから後から増築されたものと考えられる。



(写真17) 南カザフ地質管理局, 1939年^{出典27)}



(図14) 南カザフ地質管理局平面図^{出典28)}

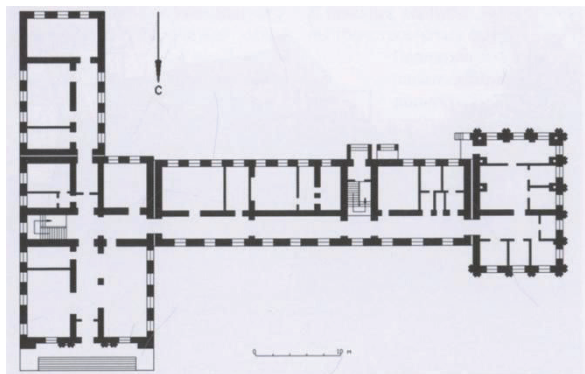
コムソモルスカヤ通りに沿ってミラ通りからヴェスノフカ川東側のコスモナフト通り^{注2)}にかけて高等教育機関が建設されていった。ジェルジェンスキー通りの交差点に外国語研究所(写真18)がM.クドゥリャフツェフの設計によって1939年に建設された。



(写真18) 外国語研究所, 1939年^{出典29)}

メインファサード妻側には三層に渡る多角形柱のジャイアント・オーダーによるルネッサンス様式のセルリアーナが用いられている。

1934年から36年にかけて建設された学校建築において細長いボリュームのサイドのボリュームの妻側にポルティコとジャイアント・オーダーが配置されている建築が数多く見られたが^{文献 69)}、平面図(図 15)においてそれらと同様の平面構成で構成主義の影響が残されている。



(図 15) 外国語研究所平面図^{出典 30)}

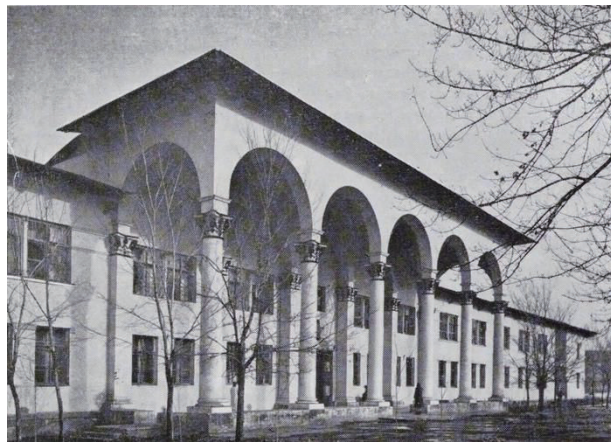
1920年代半ばから医療関連施設の建設が始まるようになったが^{文献 70)}、1937年時、病院特に産科のベッド数が不足しており^{文献 71)}女性と子供の健康を守るための特殊な医療機関が建設されていくようになった^{文献 72)}。第三次五カ年計画の最初の三年間で数多くの病院や医療施設が建設されたが、コムソモルスカヤ通り沿いに道路を介して前述した医学研究所の向かい側に治療クリニック(写真 19)がモスクワの建築家 N.ドゥルガチ、A.カプレンの設計^{文献 73)}によって1939年に建設された。この地区には病院街区が形成されたが、当時欧米の病院建設に関する情報がソ連にも入っており、米国では高層棟による集中システムが導入されていたがソ連ではそのシステムに対し半否定的で「半集中型」システムが採用された^{文献 74)}。これにより病院街区が形成されていったのではないかと考えられる。

この前面に設けられたポルティコはフィリップ・ブルネレススキのオスペダーレ・デリ・インノチェンティを参照したと考えられ、ルネッサンス建築様式で建設されたが、マリノフスカヤはプロジェクト段階(図 16)では中央アジア地域の伝統住宅の柱で構成されたイーワーン^{注 3)}とした^{文献 75)}。平面図(図 17)においてはシンメトリーで、階段室も含め平滑な構成となっている。

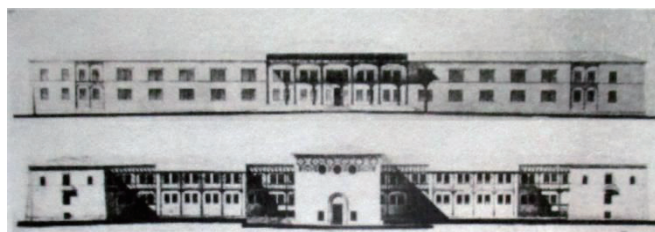
N.ドゥルガチは1929年にN.ラドフスキーの「ダイナミック都市」の計画に参加しており、その後モスクワの設計機関ギプロゴルによる都市計画に関わりアルマ・アタのマスタープランの開発に携わった^{文献 76)}。

1930年までにはカザフスタン国内の建設量が増加し

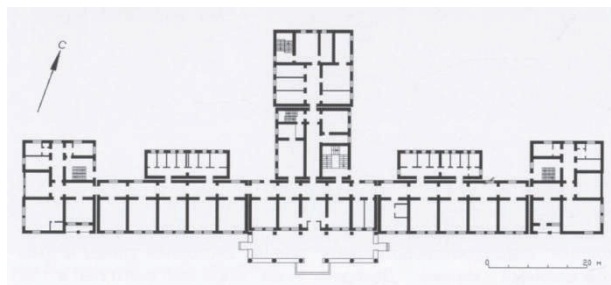
合理化する必要性から同年に設計機関のカズゴスプロジェクトが組織されたが^{文献 77)}、モスクワやレニングラードなど多くの設計者が中央から招待され、その中には亡命者も含まれており^{文献 78)}、中央からの建築家に対して地域性を主張できる地元の建築家はいなかった^{文献 79)}。



(写真 19) 治療クリニック, 1939年^{出典 31)}



(図 16) 治療クリニックプロジェクト案, 1934年^{出典 32)}

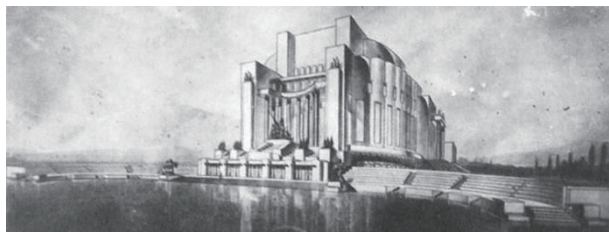


(図 17) 治療クリニック平面図^{出典 33)}

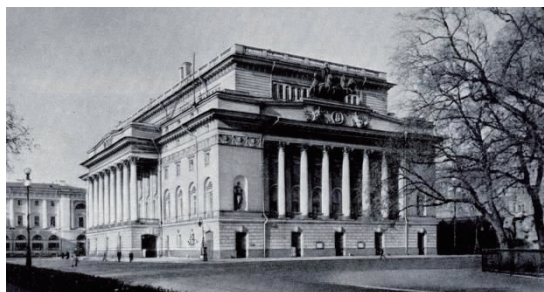
4. バレー・オペラ劇場の建設と全ソ連農業博覧会

1932年モスクワのソビエト宮殿の設計競技が開催された同じ年にバレー・オペラ劇場の設計競技が行われ、「『社会主義のプロパガンダのために最も利便な手段の一つである劇場の社会的および政治的任務』であることに重点が置かれた。設計競技の課題は歴史的に確立された建築とは異なるソビエトの建築における革新的な社会主義劇場の探求であり『社会主義的競技における大衆の集会、議会および地区集会を開催するための拠点』が強調された(筆者訳)」^{文献 80)}。「ロシア教育人民委員会のS.ブブノフが率いた審査員にV.シュエコやA.シュエセフ、カザフスタンの指導者らが招待され競技の最初は公開に

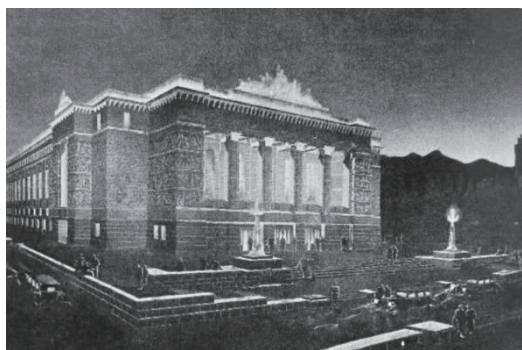
て行われ数多くの建築家が参加したが（筆者訳）」^{文献 81)}、「同年に行われた二回目の競技において モスクワから V.ココリンと V.ウラジミロフ、N.クルグロフ、レニングラードから A.ゲゲーロ・D.クリチェフスキー、V.ライリヤンらが招待され（筆者訳）」^{文献 82)}、最終的にクルグロフの案（図 18）が選ばれた^{文献 83)}。



（図 18）クルグロフの劇場案，1934 年^{出典 34)}



（写真 20）アレクサンドリンスキー劇場，1832 年^{出典 35)}



（図 19）クルグロフの劇場変更案，1938 年^{出典 36)}

クルグロフの案は楕円形の屋外スタンドを含んだ構成主義と古典主義を融合した案であったが、「1934 年カザフ中央委員会初代書記長の L.ミルゾヤンはレニングラードのアレクサンドリンスキー劇場^{注 4)}（写真 20）のような建築が必要だとし、アラタウ山脈を背景に見えるパンフィロフ通りへ劇場の敷地変更を決定した（筆者訳）」^{文献 84)}。「当時の建築様式の移行から建設は遅れ変更を余儀なくされ^{文献 85)}（図 19）（筆者訳）」、1936 年から建設が始まったがクルグロフの逮捕により 1938 年に建設がストップされた^{文献 86)}。

F. パシェンコは 1939 年第 7 号の「ソ連の建築」誌上にて「社会主義建築における民族的形態の問題について」

の論考を提議し、「民族建築の繁栄は何世紀もかけて名もなき民俗建築家によってもたらされ、その地域特有の材料で建設されその地域の気候・自然・社会的家庭的条件に適用させていった。故にソ連の建築家は自国の民族建築を注意深く研究しなければならない。（中略）建築記念碑を研究し修復するという課題は明らかで、その貴重な遺産を直接借用するのではなく批判的に創造し自然の特徴や建築材料と有機的に結びついた建築を創造し、それは同志スターリンの『内容は社会主義的、形式は民族主義的』と矛盾しない。（中略）その地域の住民や自然環境の特徴を考慮しない建築がいまだに建設され地方の伝統を無視するやり方は正当化されない（筆者訳）」と批判した^{文献 87)}。

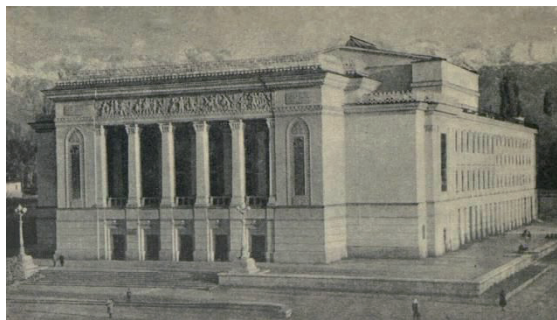
1939 年 8 月にモスクワにて全ソ連農業博覧会が開催され、社会主義農業と集団農場システムの成功を展示する各共和国のパビリオンにおいて各国ごとの歴史的建築や民俗装飾が取り入れられ（写真 21）、この成功によりソ連の各共和国の建築デザインに多大な影響を与え、民族様式への取り組みが行われるようになった^{文献 88)}。メンディクロフは自身の著書で「ロシア古典建築の構成技法と民族的装飾芸術の創造的組み合わせに基づいた、民族的形態の探求における肯定的な経験（筆者訳）」と評した^{文献 89)}。



（写真 21）カザフスタンパビリオン，1939 年^{出典 37)}

A. シューセフは 1940 年第 12 号の「ソ連の建築」誌上にて「建築における国家的な形態」という論考を発表し、「『ロシア』と『東洋』の様式は未だ研究が不十分であるためソ連の建築家は国家的な形態の探求においてそのアカデミックな様式化には頼ってはならず更なる研究が必要である。（中略）過去の記念碑の研究は国家単独で行うべきではなく例えばキルギスにおけるユルタ^{注 5)}のような建築を作り上げるのは重大な間違いであり、キルギスの装飾的な民族的伝承を用い地域の気候や生活スタイルにのっとった建物をそれらで装飾すべきだ（筆者訳）」と主張し^{文献 90)}、自ら設計したロシア古典様式とその地域の民俗装飾を組み合わせたジョージアのトビリシのマルクス・エンゲルス・レーニン研究所やウズベキスタンのタシケントのナヴォイ劇場の解説を誌上で行った

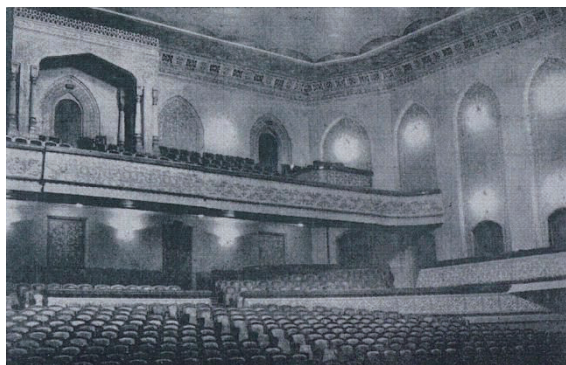
文献 91)。



(写真 22) バレー・オペラ劇場, 1941 年^{出典 38)}



(写真 23) コシュカルムイズ^{出典 39)}



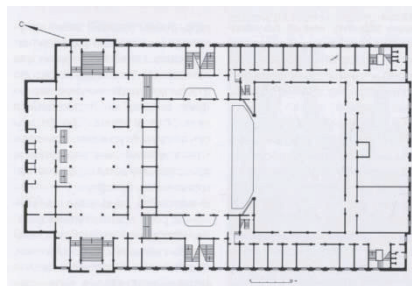
(写真 24) バレー・オペラ劇場内装, 1941 年^{出典 40)}

クルグロフの逮捕により 1936 年以来クルグロフと共に設計に携わっていた N.プロスタコフによって引き続き行われ 1941 年にバレー・オペラ劇場が完成した^{文献 92)}

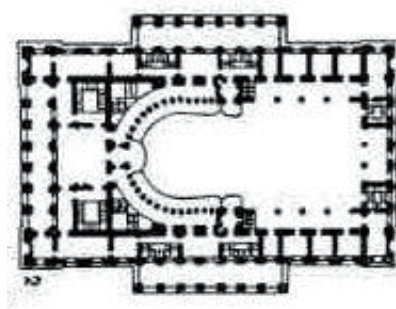
(写真 22) . プロスタコフは前述の全ソ連農業博覧会で従事した経験があり^{文献 93)}, カザフの伝統的な装飾であるコシュカルムイズ (写真 23) が前面ロジヤの角柱の柱頭やコーニス部分, 屋根上の欄干部分に初めて用いられた^{文献 94)}. 内部空間においてもバルコニーの手摺などにも同様に用いられ, 伝統建築のモチーフである尖頭形のアーチが開口部に用いられた^{文献 95)} (写真 24) . 「ロシア古典様式とカザフの民族装飾を統合して新たな民族的形式が模索されるようになったが, この新たな傾向は大祖国戦争中にバレー・オペラ劇場の建設により初めて出現した (筆者訳)」とメンディクロフは供述した^{文献 96)}.

アルマ・アタのバレー・オペラ劇場の平面図 (図 20) とアレクサンドリンスキー劇場の平面図 (図 21) を比較してみると, バレー・オペラ劇場の階段室部分は壁から

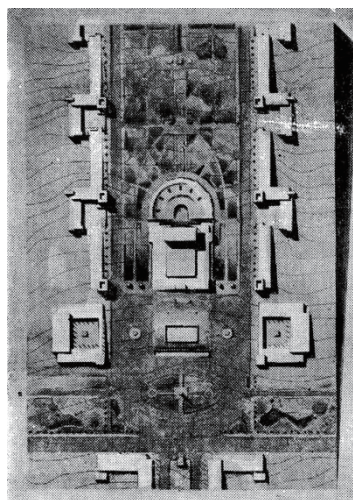
若干突き出しており, またその部分の窓も写真で確認すると縦長であり構成主義の要素が残されている.



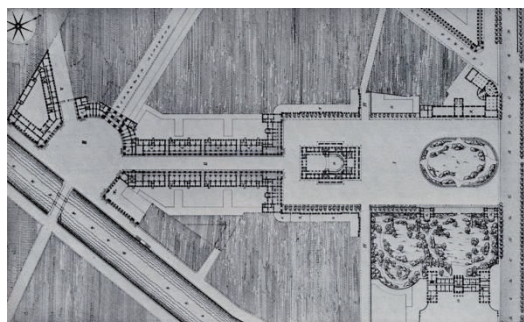
(図 20) バレー・オペラ劇場平面図^{出典 41)}



(図 21) アレクサンドリンスキー劇場平面図^{出典 42)}



(図 22) 劇場広場^{出典 43)}

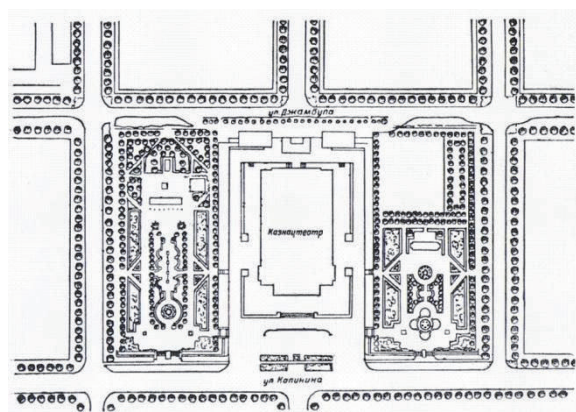


(図 23) アレクサンドリンスキー劇場周辺図^{出典 44)}

1930 年代後半にバレー・オペラ劇場周辺において広場 (図 22) が計画され, おそらくクルグロフによる計画で

はないかと考えられるが、劇場を中心にシンメトリーで極めてモニュメンタルなアンサンブルとなっているが、この案は実現されなかった。劇場東西側の建物はL字構成が連続し角部に塔屋のような高層棟が取り付けられ小さな広場を形成しているが、アレクサンドリンスキー劇場周辺図(図23)をもとにL字構成が参照されたのではないかと考えられる。

II.ペロツェルコフスキーとB.N.ステシンの噴水が設けられた緑地公園計画(図24)がシンメトリーの構成とはなっていないがこの案が実現された。



(図24) 劇場広場緑地公園計画(図面上側が南) 出典45)

5. おわりに

5.1 まとめ

1937年モスクワにて第一回全ソ連建築家同盟会議が開催され構成主義は徹底的に批判され、ファシズム建築への批判も行われ、ルネッサンス建築や民族芸術の活用が推奨されレーニン主義に基づく「社会主義リアリズム」が強化されていった。この会議に出席していたT.K.バセノフもアルマ・アタの構成主義建築を非難し、レーニンの教義に基づいて民族装飾を用いるべきと主張した。

また1937年10月は十月革命20周年に当たり社会主義リアリズムが強調され、その翌年の1938年にはマルクス・レーニン主義に関する書籍が刊行されソ連の建築におけるイデオロギーの強化が謳われていった。

1938年から1942年の第三次五カ年計画において1935年の「モスクワ復興のための一般計画」の決議内容はカザフスタンの都市計画の基礎となり社会主義を表現したアンサンブルなどが構想された。1937年に制定された新たな一般計画においてスターリン通りとコムソモルスカヤ通りが新たな軸線が設定され、その交差点に新たに巨大な中央広場が古典的なアンサンブルとして計画され、そこを中心として東西南北に都市空間の拡張が計画されたが、行政施設も古典的なアンサンブルを構成しモニュメンタル化が推し進められ古典様式で建設されていった。サモイロフは「装飾された古典的なオーダー、アーチ、ヤシの形のオーダー、ファンタジーオーダー、中央

アジアの柱、簡略化された古典、オーダーのディテールが施された国家一新古典主義の方向性(筆者訳)」と定義した^{文献97)}。しかし外観はロシア古典様式で建設された人民健康委員会、国家農業省と食品産業人民委員会、財務省など公共建築における平面構成には従来の構成主義の要素が残されていた。

住宅建築においてシンメトリー化が進み古典的要素がファサードに加えられていき、1936年7月のシモロフによる住宅建築に関する論考以降バルコニーやアール・デコ、ルネッサンス建築の要素も導入されより造形的に豊かになったが、階段室などに構成主義の要素が残されていた。

1930年代後半からコムソモルスカヤ通り沿いの西側へ公共施設が建設され、南カザフ地質管理局における古典様式や外国語研究所に関してファサードにルネッサンス建築の要素が導入されていたが、平面構成においては構成主義の要素が残されていた。治療クリニックにおいてはファサード正面にルネッサンス様式が適用されたが平面構成は平滑で、これはモスクワの当時の建築とカザフスタンの建築家との違いではないかと考えられる。

1932年ソビエト宮殿の設計競技が開催された同一年にアルマ・アタのバレエ・オペラ劇場の設計競技が行われクルグロフによる構成主義的な提案が選出されたが、1937年の第一回全ソ連建築家同盟会議による建築様式の移行により何度も変更され、その間の1939年には全ソ連農業博覧会がモスクワで開催され各共和国の民族様式が大々的に表現されたが、その後のソ連の建築に多くの影響を与えることになった。

1940年はレーニン生誕70周年に当たりマルクス・レーニン主義に基づいてのみ建築の発展は可能とされ、過去の遺産を批判的に活用するよう強く謳われた。1941年にアルマ・アタのバレエ・オペラ劇場は、レニングラードのアレクサンドリンスキー劇場を参照しつつロシア古典様式とカザフの民族装飾を統合した新たな民族的様式で建設されたが、階段室の部分に構成主義の要素が残されていた。サモイロフはこの時期の様式の傾向を「新国家的伝統的方向性(筆者訳)」と分析した^{文献98)}。

1939年の建築雑誌上でパシェンコによる論考が発表され、ソ連の建築家は自国の伝統を批判的に建築に取り入れるべきだと主張されたが、アルマ・アタの建築においてはA.シューフが主張したように、伝統建築特有の形態ではなくロシア古典建築様式にカザフの伝統装飾が施された建築が建設され、アラビヤンが提唱したレーニンの「民族文化と国際文化」、すなわち「二つの文化」はこのように形成されていった。

5.2 今後の課題

本稿2で言及したアラビヤンによる発言でドイツやイ

タリアのファシズム建築への否定があったが、建築における「社会主義リアリズム」の成立の背景にはファシズムへの対抗心のようなものがあったのか。

本稿2においてアラビヤンが提唱したレーニンの「民族文化と国際文化」つまり「二つの文化」がアルマ・アタにおいて具体的にどのように展開されていたかさらに検証する必要がある。

本稿3.1にて言及した1937年に建設された医学研究所においてゲゲーロらのプロジェクトに基づいて後にラスポスやS.ステシンによって設計が行われたが、ゲゲーロのプロジェクトからどのような変更が行われたのか。またゲゲーロのプロジェクトはV.シュエコのプロジェクトから具体的にどのような影響を受けたのか。

本稿3.1にて言及した1938年にトルキスタン・シベリア鉄道管理局が改修されたが、第一回全ソ連建築家同盟会議がモスクワで開催された後、カザフスタンの共産党中央委員会やカザフスタンの建築家において何らかの会議が行われ決定が下されたのか。

本稿3.1にて言及したアルマ・アタII鉄道駅の建設年代が著者によって異なるが実際にどれが正しいのか。

本稿3.1にて言及した国家農業省と食品産業人民委員会はG.クシュナレンコの設計によって1938年に建設されたが、なぜ両者のオーダーが異なっているのか。また健康人民委員会を含むこれら三棟の配置計画は医学研究所から何らかの参照が行われたのか。参照されたとすればオーダーが異なっているのは医学研究所の批判的継承であった可能性が考えられる。また本稿3.1にて言及した1937年から1938年にかけて建設された公共建築に対し、バセノフは「ロシア古典の発展的活用でありフォーミンやシュエコの建築スクールが設計した古典建築はカザフスタンの建築に適していた」と述べたが、彼らは本稿2で言及したD.アーキンが述べた「レニングラード派」で、ゲゲーロは十月革命以前レニングラードにてフォーミンの工房でアシスタントとして働いており^{文献99)}、医学研究所ではおそらくレニングラード派の影響を受けたのではないかと考えられる。シュガルやクシュナレンコはそのレニングラード派の建築や医学研究所を参照した可能性があるが詳しい検証が必要である。

本稿3.2にて言及した住宅団地No.5において1938年の建設とされているが同年にはトルキスタン・シベリア鉄道管理局が改修されており、それ以前に建設されていて、同様に何らかの政治的決定の後から改修され付け柱やアーチなどの装飾が取り付けられた可能性はないか。

本稿3.2にて言及した1936年のシモロフの論考後に建設されたスタハノフの家のファサードの表情が陰影の深いものとなったが、「ジョルトフスキー派」が好んだパラーディオの建築がどのように参照されたのか。

本稿4にて言及したバレー・オペラ劇場についてレニ

ングラードのアレクサンドリンスキー劇場のどの部分が具体的に参照されたのか。また広場計画についてもどのような参照が行われたのか。さらに後の広場計画において何故シンメトリーでないのか。それを崩すのには当時何らかの理由があったと思われる。

本稿においては書籍に掲載された図面や写真、平面計画やファサードの分析を試みましたが、後に増築されたとと思われる平面図も含まれておりオリジナルの図面を含む一次資料による更なる検証が必要である。

参考文献

- 1) 諸喜田真：カザフスタンのアルマトイ市の第一次・第二次五カ年計画におけるソビエト政権下の都市計画・建築様式に関する研究動向と課題：ソビエト・カザフスタンの一般建築史 その1, 九州大学大学院人間環境学研究院紀要第46号, 九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門, pp.39-40, 2024年7月
- 2) Архитектура СССР 1937 №.07-08 (ソ連の建築 1937 No.07-08), Стройиздат, p.4, 1937
- 3) Ibid., p.4
- 4) Алабян К. С. : Задачи советской архитектуры, Первый Всесоюзный съезд советских архитекторов (ソビエト建築の課題, 第一回ソビエト建築家全同盟会議), Издательство Всесоюзной академии архитектуры, p.3, 1937
- 5) Ibid., pp.8-10
- 6) Ibid., p.9
- 7) Ibid., p.13
- 8) Ibid., p.14
- 9) Ibid., p.16
- 10) Ibid., p.17
- 11) Ibid., p.17
- 12) Ibid., p.18
- 13) Ibid., p.19
- 14) Ibid., p.23
- 15) Ibid., p.23
- 16) Архитектура СССР 1937 №.07-08, Стройиздат, p.29, 1937
- 17) Ibid., p.31
- 18) Ibid., p.31
- 19) Ibid., pp.31-32
- 20) Ibid., p.32
- 21) Ibid., p.32
- 22) Ibid., p.35
- 23) Ibid., p.37
- 24) Ibid., pp.45-46
- 25) Ibid., p.49
- 26) Ibid., p.50

- 27) Ibid., p.28
- 28) Ibid., p.5
- 29) Ibid., p.7
- 30) Басенов Т. К. : Казахская ССР, Архитектура СССР 1937 №.07-08, Стройиздат, p.24, 1937
- 31) Архитектура СССР 1937 №.10, Стройиздат, p.9, 1937
- 32) Архитектура СССР 1938 №.12, Стройиздат, p.3, 1938
- 33) Архитектура СССР 1939 №.3, Стройиздат, pp.6-7, 1939
- 34) Архитектура СССР 1940 №.1, Стройиздат, p.2, 1940
- 35) Ibid., p.2
- 36) Ibid., p.3
- 37) Глаудинов Б.А., Сейдалинов М.Г., Карпыков А.С. : Архитектура Советского Казахстана (ソビエト・カザフスタンの建築) , Стройиздат, p.59, April, 1987
- 38) Ibid., p.60
- 39) Ibid., p.60
- 40) Сарумова М.Н. :Алма-Ата. Планировка и реконструкция (アルマ・アタ 計画と再建), Казгосиздат, p.83, 1937
- 41) Ibid., p.47
- 42) Глаудинов Б.А., Сейдалинов М.Г., Карпыков А.С. : op.cit., pp.59-60
- 43) Капанов А. К., Баймагамбетов С. К. : Алматы: архитектура и градостроительство (アルマトイ : 建築と都市計画) , DIDAR Publishing Co., pp.59-60, 1998
- 44) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г.-Рюнтю, Проскурин В.Н. : СВОД памятников истории и культуры г.Алматы (年代記 アルマトイの歴史・文化的記念碑) , Казак энциклопедиясы, p.312, 2006
- 45) Малиновская Е.Г. : Памятник современной архитектуры (近代建築の記念碑) , Алматы: ARK Gallery, p.79, April, 2018
- 46) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.235
- 47) Барагин Д.Д., Белоцерковский И.И. : Архитектура городов СССР. - Алма-Ата (ソ連の都市の建築 - アルマ・アタ) , Государственное издательство архитектуры и градостроительства, p.34, 1950
- 48) Мендикулов М. М. : Архитектура города Алма-Аты (アルマ・アタ市の建築), Издательство Академии наук Казахской ССР, p.37, 1953
- 49) Сарумова М.Н. : op.cit., p.28
- 50) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.235
- 51) Ibid., p.236
- 52) Мендикулов М. М. : op.cit., p.61
- 53) Басенов Т. К. : Орнамент Казахстана в архитектуре (建築におけるカザフスタンの装飾) , Издательство Академии Наук Казахской ССР, p.23, 1957
- 54) Мендикулов М. М. : op.cit., p.61
- 55) Ibid., p.63
- 56) Курбатов В. В. : Советская архитектура (ソビエト建築) , Просвещение, p.55, 1988
- 57) Глаудинов Б.А., Сейдалинов М.Г., Карпыков А.С. : op.cit., p.76
- 58) Ibid., p.77
- 59) Ibid., p.78
- 60) Архитектура СССР 1936 №.7, Стройиздат, p.1, 1936
- 61) Глаудинов Б. : Архитектура Советского Казахстана, Стройиздат, p.21, 1974
- 62) Мендикулов М. М. : op.cit., p.82
- 63) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.147
- 64) Самойлов К.И. : Архитектура Казахстана XX века (Развитие архитектурно-художественных форм) (20世紀のカザフスタンの建築 (建築と芸術形式の発展)) , М-АРи, p.196, 2004
- 65) Ibid., p.196
- 66) Глаудинов Б. : op.cit., p.21
- 67) Самойлов К.И. : op.cit., p.181
- 68) Гинатулин Дамир : Алматы : тогда и сейчас (アルマトイ : 当時と今) , Издательская компания «RUAN», p.27, 2010
- 69) 諸喜田真 : op.cit., pp.48-49
- 70) Глаудинов Б. : p.cit., p.24
- 71) Сарумова М.Н. : op.cit., p.6
- 72) Глаудинов Б.А., Сейдалинов М.Г., Карпыков А.С. : op.cit., p.86
- 73) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.234
- 74) Архитектура СССР 1938 №.1, Стройиздат, p.24, 1938
- 75) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.143
- 76) Архитектура СССР 1976 №.6, Стройиздат, p.49, 1976
- 77) Глаудинов Бекримжан : Развитие Архитектуры Казахстана в Эпоху Социализма (社会主義時代のカザフスタンにおける建築の発展) , Казахской головной архитектурно-строительной академии, p.86, 2019
- 78) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., pp.144-145
- 79) Ibid., p.143
- 80) Малиновская Е.Г. : op.cit., pp.51-52
- 81) Ibid., p.54
- 82) Ibid., p.54
- 83) Ibid., p.58
- 84) Ibid., p.62
- 85) Ibid., p.62
- 86) Ibid., p.65
- 87) Архитектура СССР 1939 №.7, Стройиздат, pp.4-5, 1939

- 88) Мендикулов М. М. : op.cit., p.38
89) Ibid., p.39
90) Архитектура СССР 1940 №.12, Стройиздат, pp.53-55, 1940
91) Ibid., p.56
92) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.149
93) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.123
94) Глаудинов Б.А., Сейдалинов М.Г., Карпыков А.С. : op.cit., p.92
95) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.126
96) Мендикулов М. М. : op.cit., p.38
97) Самойлов К.И. : op.cit., p.857
98) Ibid., p.857
99) Бархин М.Г., Иконников А.В. : Мастера советской архитектуры об архитектуре. Том 1 (2) (ソビエト建築の巨匠たち) , Искусство. Москва, p.246, 1975

写真・図版出版

- 1) Сарумова М.Н. : Алма-Ата. Планировка и реконструкция, Казгосиздат, p.67, 1937
2) Ibid., p.69
3) Ibid., p.79
4) Барагин Д.Д., Белоцерковский И.И. : Архитектура городов СССР - Алма-Ата, Государственное издательство архитектуры и градостроительства, p.36, 1950
5) Мендикулов М. М. : Архитектура города Алма-Аты., Издательство Академии наук Казахской ССР, p.135, 1953
6) Сарумова М.Н. : op.cit., pp.72-73
7) Ibid., p.72
8) Бархин М.Г., Иконников А.В. и др. : Мастера советской архитектуры об архитектуре. Том 1 (2), Искусство, p.592, 1975
9) Ibid., p.591
10) Барагин Д.Д., Белоцерковский И.И. : op.cit., p.44
11) Мендикулов М. М. : op.cit., p.128
12) Сарумова М.Н. : op.cit., p.52
13) Барагин Д.Д., Белоцерковский И.И. : op.cit., p.30
14) Мендикулов М. М. : op.cit., p.132
15) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г.-Рянтю, Проскурин В.Н. : СВОД памятников истории и культуры г.Алматы, Казак энциклопедиясы, p.210, 2006
16) Мендикулов М. М. : op.cit., p.124
17) Нурпеисов М.М., Малиновская. : op.cit., p.226
18) Мендикулов М. М. : op.cit., p.123
19) Нурпеисов М.М., Малиновская. : op.cit., p.212
20) Ibid., p.160
21) Мендикулов М. М. : op.cit., p.195
22) Ibid., p.196
23) Ibid., p.199
24) Ibid., p.196
25) Ibid., p.197
26) Ibid., p.200
27) Гинатулин Дамир : Алматы : тогда и сейчас, Издательская компания «RUAN», p.26, 2010
28) Нурпеисов М.М., Малиновская. : op.cit., p.218
29) Барагин Д.Д., Белоцерковский И.И. : op.cit., p.35
30) Нурпеисов М.М., Малиновская. : op.cit., p.313
31) Архитектура СССР 1970 №6, Стройиздат, p.50, 1970
32) Малиновская Е.Г. : Памятник современной архитектуры, Алматы: ARK Gallery, p.86, April, 2018
33) Нурпеисов М.М., Малиновская. : op.cit., p.234
34) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.54
35) Тарановская М. : Карл Росси. Архитектор. Градостроитель. Художник (カルル・ロッシ. 建築家. 都市計画家. 芸術家) , Стройиздат. Ленинград, p.34, 1980
36) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.62
37) Архитектура СССР 1939 №.9, Стройиздат, p.24, 1939
38) Барагин Д.Д., Белоцерковский И.И. : op.cit., p.50
39) Мендикулов М. М. : op.cit., p.147
40) Ibid., p.147
41) Нурпеисов М.М., Малиновская. : op.cit., p.300
42) Максимов. П. Н. : Всеобщая история архитектуры. Том 6. Архитектура России, Украины и Белоруссии. XIV — первая половина XIX вв. (建築の一般的な歴史. 第 6 巻. ロシア, ウクライナ, ベラルーシの建築. 14 - 19 世紀前半) , Стройиздат, p.278, 1968
43) Сарумова М.Н. : op.cit., p.37
44) Тарановская М. : op.cit., p.131
45) Мендикулов М. М. : op.cit., p.145

注

- 1) 後にジベック・ジョリ通りと名称が変更。
2) 後にバイティルシノフ通りと名称が変更。
3) イーワーンとは二つの意味があり、一つはイスラム建築の前方部分の三方を壁で囲まれた開口部空間で、もう一つは中央アジアの伝統住居に見られる柱で支えられた中庭に面した半外部のテラス空間の事で、ここではそのテラス空間の事を指している。
4) イタリア人建築家カルロ・ロッシの設計により 1828 年から 1832 年にかけて建設された。
5) カザフ人やキルギス人など中央アジアの遊牧民の伝統住居。日本では中国語のパオが用いられている。

参考文献, 写真・図版は二次資料からの転載
(受理: 令和 6 年 10 月 22 日)